

リシリコンブに付く“ムシ”はワカメから移る？

はじめに

リシリコンブは本道の北部に分布する高級コンブで、特に利尻島と礼文島では重要な水産資源になっています。漁場で採る天然コンブとロープで育成する養殖コンブがあります（図1）。漁場のリシリコンブはエゾバフンウニやキタムラサキウニにとっての主要な餌でもあるため、北海道北部の磯根漁業にとっては無くてはならない大切な資源です。このリシリコンブに最近、一つの懸念が目立っています。

コンブノネクイムシによる被害

天然でリシリコンブは茎と根で海底に体を固定し、養殖ではこれらがロープに絡まることにより繋がっています（図1）。ところが、この“命綱”とも言える根と茎にトンネル状の穴を掘って生活するムシが居るのです（図2）。

正確には「コンブノネクイムシ」と称される、エビやカニと同じ甲殻類の仲間です。コンブ類などの大型の海藻に寄生することが昔から知られています。年によっては大発生し、その根や茎を食い荒らすことにより、リシリコンブが流失するので資源が減少する被害が発生します。また、漁業者からの情報によるとコンブノネクイムシは夏になると急に見られるようになるそうです。晩夏は

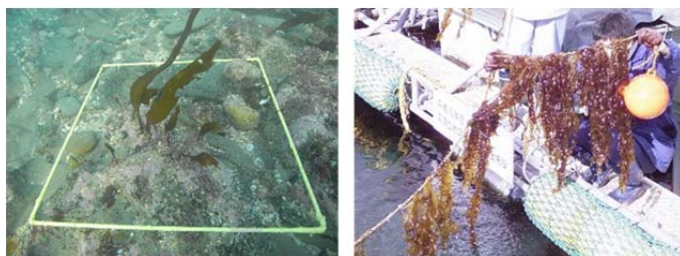


図1 天然リシリコンブ（左）と養殖（右）



図2 養殖施設のリシリコンブの藻体（上）と茎の内部に潜んでいたコンブノネクイムシ（下）

コンブの収穫時期でもあり、コンブノネクイムシの付いたリシリコンブは商品価値を失うので、本種は大きな漁業被害をもたらしています。同じく漁業者から得た情報ですが、コンブノネクイムシは過去5年前くらいから天然のリシリコンブ漁場で目立ち始めて、さらには今までは見られなかった養殖コンブでも本種が目立っているそうです。

調べてみて分かったこと

ところで、夏にリシリコンブで見られ始めるコンブノネクイムシは、春にはどこで過ごしているのでしょうか？それを知るために、利尻島の南部に位置する鬼脇地区の地先でコンブ類を毎月採取して、コンブノネクイムシの有無を観察しました。その結果、漁場で出現した主なコンブ類はワカメとリシリコンブでした。ワカメが生育していたのは5～7月だけであったのに対し、リシリコンブはすべての月で生えていました（図3上）。そしてワカメでコンブノネクイムシが居たのは5～7月で、藻体数の半分以上で本種が見られたのに対し、この期間リシリコンブではコンブノネクイムシがほとんど付いていません。ところがワカメが消える8月以降は、全部のリシリコンブでコンブノネクイムシが見られています（図3中）。特に7月のワカメでは、一本の藻体で数多くのコンブノネクイムシが見られました。このことからコンブノネクイムシは、初夏にワカメからリシリコンブに移っているものと予想しています。さらに7～9月は卵を持ったコンブノネクイムシが得られ、これは

夏に繁殖していることも分かりました（図3下）。コンブノネクイムシは繁殖時期である夏に大量に増え、消えゆくワカメから残っているリシリコンブに生活の場を移していると思われる。

今後の対策に向けて

今回の情報は一カ所、一年だけの結果であり、一般的な知見であるとは言えません。そこで今後は養殖施設など多少場所を変えて、コンブノネクイムシが同様にワカメからリシリコンブに移るのかを確かめる必要があります。なおコンブ養殖施設では、ロープの一部に沢山のワカメが付着していることが多いです。養殖施設でもコンブノネクイムシがワカメからリシリコンブに乗り移っているとしたら春先にワカメを除去することによって、被害を予防できるかもしれません。

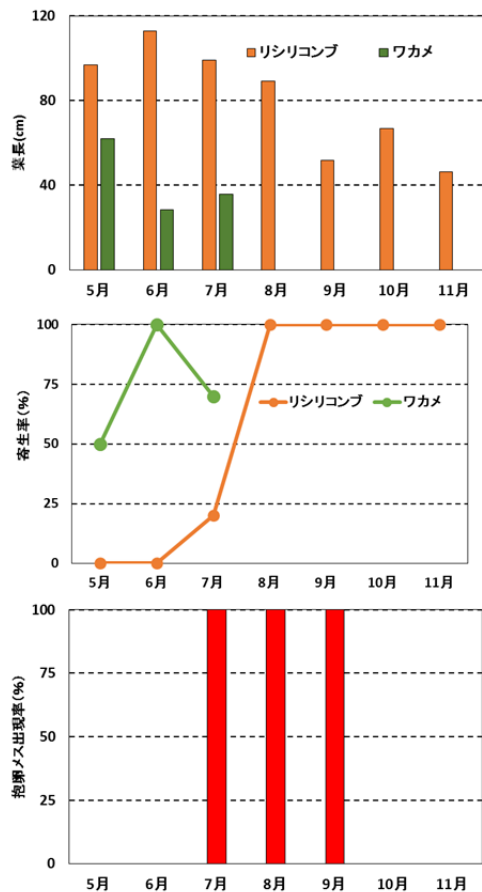


図3 リシリコンブとワカメとコンブノネクイムシの出現状況